

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績 (平成25年度から平成30年度まで)	実施実績の 前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業内容	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者 (市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
1	芸術士派遣事業	昨年度決算額：38,000千円 今年度予算額：37,692千円	芸術士が本市内の公私立の保育所・こども園と、公立幼稚園を分担し、日々の保育及び教育の中で保育士等と連携しながら、子どもたちと造形活動や身体表現等、様々な表現活動をしています。芸術士は、子どもたちの無限の可能性を信じ、子どもたちの感性と創造力を最大限に引き出す手助けをし、子どもたちと社会をつなぐ架け橋として子どもたちの創造力の育成に努めています。	派遣箇所数	平成25年度 27か所 平成26年度 35か所 平成27年度 40か所 平成28年度 40か所 平成29年度 40か所 平成30年度 43か所	107.5%	・様々な表現活動を通して、表現の楽しさ・面白さを体験することで、子どもたちの意欲や好奇心が養われている。 ・子どもの表現活動の「過程」や「個性」を認め合うことで、子どもの自尊感情や自己肯定感が育まれている。 ・保育士等が専門性の高い芸術士とともに協働で教育保育を展開することにより、異業種間での学び合いが教育保育の質の向上に繋がっている。	平成21年から実施している事業であるが、今後も、芸術士を保育所等へ派遣を行い、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるよう導くとともに、指導方法の共有化や人材の確保に努める。	継続	こども園運営課			
2	0才からのコンサート	昨年度決算額：1,000千円 今年度予算額：1,000千円	0歳から3歳くらいまでの子どもとその保護者（妊婦を含む）を対象に、親子で一緒に楽しめるクラシック・コンサートの鑑賞の機会を提供し、乳幼児をもつ保護者へのひとときの安らげる時間を提供するほか、乳幼児には幼い頃から音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の創造に関心を深めることを目的に実施します。	観客数	平成25年度 実績なし 平成26年度 463人 平成27年度 602人 平成28年度 559人 平成29年度 641人 平成30年度 361人	56.3%	例年と異なり、最大で100人規模の会場のみで実施したため、前年度に比べると観客数は減少したが、市内全域から会場を選定し、初めて牟礼地区・香南地区で実施するなど、地域の子育て世帯に音楽鑑賞機会を提供した。	生の音楽鑑賞機会から遠ざかりがちな子育て世帯を対象とするこのコンサートは、来場者アンケートで多くの方から満足したとの回答を得ているほか、募集開始早々に定員に達するなど人気が高いことから、引き続きコンサートの開催を継続し、より多くの市民が音楽に触れる機会を提供する。今後の開催に当たっては、市民の利便性等も踏まえ、様々な会場を検討する。	継続	文化芸術振興課			
3	ものづくりふれあい教室事業	昨年度決算額：480千円 今年度予算額：480千円	小・中学生を対象に、ものづくりにチャレンジしながら、文化の創造に関心を深め、ものづくりの大切さを体験する機会を提供します。今後は、工芸の視点も取り入れ、子どもたちに日本の伝統文化の魅力も伝えていきます。	参加数	平成25年度 829人 平成26年度 861人 平成27年度 1,223人 平成28年度 1,025人 平成29年度 651人 平成30年度 760人	116.7%	平成30年度は15校において、洋裁部門、和裁部門の5メニューで計16回実施した。	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課			
4	学校巡回芸術教室・能楽教室事業	昨年度決算額：4,728千円 今年度予算額：4,763千円	小・中学生の情操教育の一助とし、健全育成に資するため、学校巡回形式で、生の優良な芸術や古典芸能を鑑賞し、体験する機会を提供します。能楽、歌舞伎等の伝統芸能を身近に鑑賞、体験できる機会の提供（ホール公演、薪能等）についても検討していきます。	【学校巡回芸術教室】参加者数	平成25年度 8,360人 平成26年度 7,097人 平成27年度 12,283人 平成28年度 9,876人 平成29年度 7,983人 平成30年度 9,147人	114.6%	平成29年度は11メニューを19校で、30年度は12メニューを20校で実施した。	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課			
		昨年度決算額：1,645千円 今年度予算額：1,677千円		【能楽教室事業】参加者数	平成25年度 2,172人 平成26年度 2,965人 平成27年度 1,555人 平成28年度 3,617人 平成29年度 3,243人 平成30年度 2,650人	81.7%	平成27年度以降、能楽・囃子・狂言の3メニューを実施しており、平成30年度の鑑賞児童は6校で2,650人であった。	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課			
5	劇団四季ミュージカル「こころの劇場」	昨年度決算額：1,070千円 今年度予算額：1,133千円	高松市において実施される劇団四季「こころの劇場」ミュージカル公演について、本市並びに瀬戸・高松広域連携中枢都市圏域内の児童（小学6年生）を招待します。	鑑賞者数	【観客数/回数】 平成25年度 4,985人/1公演6回 平成26年度 5,323人/1公演6回 平成27年度 5,362人/1公演6回 平成28年度 5,303人/1公演5回 平成29年度 4,997人/1公演5回 平成30年度 5,144人/1公演5回	102.9%	『瀬戸・高松広域定住自立圏（文化芸術鑑賞機会等の提供）』の事業として、平成31年2月13-15日の3日間で、高松・土庄町・小豆島町・三木町・直島町・綾川町・さぬき市内74校の小学6年生及び教員を招待し、『王様の耳はロバの耳』の公演を5回実施した。	引き続き、舞台劇の鑑賞をとおして、児童の情操を涵養することを目的に事業を継続実施する。	継続	文化芸術振興課	学校教育課	(主管課) ホールの手配、ホール使用料の支出 (関係課) 市内の各学校との連絡、参加者取りまとめ  各学校への事前説明及び公演当日の運営は共同で実施する。	

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績 (平成25年度から平成30年度まで)	実施実績の 前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業内容	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者 (市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
6	地域密着型トップスポーツチームの活用	昨年度決算額：16,714千円 今年度予算額：15,643千円	カマタマーレ讃岐等、4つの地域密着型トップスポーツチームを活用し、学校訪問や試合への無料招待等、子どもたちに直接選手等に触れ合う機会を提供することで、子どもたちの向上心や創造力の育成を図ります。 平成29年度からは、香川ファイブアローズの選手が施設（市内幼稚園・保育園、小・中学校など）を訪問し、交流を深めることで、広く市民にチームをPRし、ファン層の拡大や青少年の健全育成等を図ることを目的として、新たに「ホームタウン推進事業」を実施しています。さらに、30年度からは、カマタマーレ讃岐を本事業の対象とするなど、今後も、香川県やトップスポーツチームと連携を図りながら、様々な機会を通じ、より多くの子どもたちにトップスポーツチームの選手等と触れ合える機会を提供していきま	教室等開催回数	平成25年度 15回 平成26年度 11回 平成27年度 10回 平成28年度 7回 平成29年度 65回 平成30年度 109回	167.7%	これまでは地域イベントへの派遣が主ではあったが、選手が施設（市内幼稚園・保育園、小・中学校など）を訪問し、交流を深めることで、広く市民にチームをPRし、ファン層の拡大や青少年の健全育成等を図ることを目的として実施する「ホームタウン推進事業」を香川ファイブアローズに加え、カマタマーレ讃岐でも実施。 また、香川オーリーフガイナースにおいてもチーム独自で幼稚園等を訪問するなど、選手と市民との交流事業が拡大し、青少年の健全育成及び認知度向上に努めた。	地域密着型トップスポーツチームを活用し、引き続き、幼稚園・学校等への訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待などを実施していく。また、今後においても、子どもたちの向上心や創造力の育成を図っていくため、県や地域密着型トップスポーツチームと連携を図りながら、様々な手段を通じ、一人でも多くの子どもたちに選手等と触れ合える機会を提供していく。	継続	スポーツ振興課	観光交流課	高松市民応援デーにおけるアウェイサポーターへの高松市観光PR（ノベルティ、讃岐うどんの配布）	
7	高松市美術館こどもアートスペース	昨年度決算額：206千円 今年度予算額：206千円	平成28年3月リニューアルに合わせて、高松市美術館内に「こどもアートスペース」を開設しました。「ふらっとアート」では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、未就学児を始め様々な世代等に親しまれる教育普及プログラムを展開します。	子ども対象イベント・講座参加数	平成27年度 537人 平成28年度 1,230人 平成29年度 1,913人 平成30年度 2,355人	123.1%	平成28年度に開設された「こどもアートスペース」は活動開始以来、知名度が増し、またリピーターも増えたことから、利用者数はこれまでで最大となった。	「こどもアートスペース」を活用し、未就学児はじめ様々な世代に親しまれる教育普及プログラムを展開していく。特に「ふらっとアート」では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、幅広い世代に楽しんでいただく予定。また、子ども向けの美術図書や絵本を自由に閲覧していただく。	継続	美術館美術課			
8	夏休み親子探検隊リーフレット制作事業	昨年度決算額：211千円 今年度予算額：229千円	各課が夏休み期間中に小学生の親子を対象として開催する講座をまとめたリーフレットを作成し、市内の全小学生へ配布する。	掲載事業数	平成26年度 9 平成27年度 54 平成28年度 82 平成29年度 50 平成30年度 91	182.0%	各課が夏休み期間中に小学生の親子を対象として開催する講座をまとめたリーフレットを作成し、市内の全小学生へ配布した。	掲載講座数及び内容を精査し、こどもの多様な興味関心に応えることが出来るよう内容を充実させたい。	継続	産業振興課	農林水産課、文化財課、市場業務課、人権啓発課、危機管理課、政策課、消費生活センター、消防防災課、総務局総務課、環境保全推進課、保健体育課、生活衛生課、こども未来館、平和記念館、香南歴史民俗郷土館、讃岐国分寺跡資料館、石の民俗資料館、高松市埋蔵文化財センター、歴史資料館、中央図書館、南部クリーンセンター、生涯学習センター、高松テルサ	インフォギャラリーにて全課へリーフレットへ掲載希望を照会し掲載する。	
9	こども未来館わくわく体験事業	昨年度決算額：2,551千円 今年度予算額：2,459千円	子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流、子育てに係る支援並びに学習及び体験活動の場を提供することにより、子どもの夢や想像力を育むとともに、健やかな成長に資するため、遊びや科学、アートなどの体験活動を提供するイベントプログラムや親子で参加できる体験イベントなどの様々な魅力ある事業の提供に努めています。	開館記念事業としての実績： 企画事業入館者数 平成29年度～： こども未来館わくわく体験事業参加者数	平成28年度 6,694人 平成29年度 4,833人 平成30年度 5,550人	114.8%	子どもの夢や想像力を育むような魅力あるイベントを提供することにより、子どもを中心とした幅広い世代の人々が来館し、世代間交流の場として、また子どもの遊び・体験・学びの場として寄与した。	こども未来館わくわく体験事業に参加した人のアンケート集計結果や高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、魅力ある事業の提供をする。	継続	こども未来館			
10	子ども・子育て支援事業	昨年度決算額：21,488千円 今年度予算額：23,954千円	みんなのひろばとプレイルームを子どもと保護者の居場所として提供するとともに、子ども・子育ての相談に対応し、子どもと親がともに育ち合う子育て支援機能とふれあい・交流による多世代交流機能を果たすことを目的として実施します。	みんなのひろば・プレイルーム利用者数	平成28年度 35,082人 平成29年度 76,597人 平成30年度 80,443人	105.0%	みんなのひろば・プレイルームを子どもと保護者がともに育ち合う場として、また保護者同士の交流や情報交換の場として、子どもと保護者の居場所を提供し、子育て支援に寄与した。	来館者アンケートや高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、子どもと保護者のふれあいの場となるよう居場所提供事業をする。	継続	こども未来館	子育て支援課	地域子育て支援コーディネーター事業により、毎月1回コーディネーターが子ども・子育ての相談対応をしている。	

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績 (平成25年度から平成30年度まで)	実施実績の 前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業内容	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者 (市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
11	こども未来館学習体験事業	昨年度決算額：36,119円 今年度予算額：35,476円	市内の小学校4年生（ただし、学校の状況により5年生以上、学校の希望により、中学校の生徒を対象に実施できる。加えて、連携中枢都市圏の小・中学校も受入れ可能。）を対象として、こども未来館の施設を利用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力と探究心を育むことで、健やかな成長に資することを目的に実施します。	こども未来館学習実施学校数／延べ人数	平成28年度 21校／1,737人 平成29年度 54校／4,558人 平成30年度 61校／4,821人	学校数：113.0% 延べ人数：105.8%	こども未来館の施設を活用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力（創造力）と探究心を育むことで、健やかな成長への支援に寄与した。	こども未来館学習運営委員会やこども未来館学習事前研修会において、学習の課題を検討して、学習内容の充実を図りながら実施する。	継続	こども未来館		人権啓発課（平和記念館）中央図書館（夢みらい図書館）	こども未来館学習の実施
12	夢みらい図書館	昨年度決算額：0千円 今年度予算額：12千円	子ども向けの本を充実させるとともに、おはなし会や読み聞かせ、多様なイベント等を開催するなど、子どもに重点を置いた、子どもも大人も楽しく本に親しむことができる場を提供しています。	子ども対象イベント参加者数	平成28年度 496人 平成29年度 2,555人 平成30年度 2,684人	105.0%	・定例おはなし会を月9回実施するとともに人形劇やかるた大会など様々な児童行事を行うほか、こども未来館と連携しプラネタリウムで「星空おはなし会」を実施するなど、子どもたちが広く読書に親しんでもらえるような機会を提供した。 ・平成30年度からこども未来館科学展示室に、子どもたちの学習活動に資するため科学関係図書を配置した。	子ども向けの本を、より一層充実させるとともに、定例おはなし会を継続実施するほか、今後も、こども未来館ほか関係課とも連携を図りながら、読書に親しめるような多様なイベントを開催し、子どもの読書活動の推進に取り組みます。	継続	中央図書館		こども未来館 人権啓発課 (平和記念館)	・プラネタリウム（こども未来館）で星空おはなし会を行うなど、連携して事業を実施 ・科学展示室（こども未来館）などに関係図書を配置 ・閲覧室に、こども未来館、平和記念館関係の図書を分かりやすく配置
13	高松ステージキッズ ゆめのまちへきてみまい！	昨年度決算額：2,000千円 今年度予算額：0千円	平成30年度をもって任期を満了するアートディレクターによる推進事業の集大成として、同事業により繋がりが生まれた団体・個人と協働して子どもの演劇ワークショップ「高松ステージキッズ ゆめのまちへきてみまい！」を実施します。 夏休み中の6日間にわたり小学生を対象とした演劇ワークショップを実施し、多田淳之介氏による総合演出の下、子どもたちが芸術家の表現方法を学びながら、地域と一緒に舞台芸術の制作に取り組みます。	参加児童数／鑑賞者数	平成30年度 5人／70人	—	平成30年8月6日から11日までの間、高松国分寺ホールにおいて市内小学校の4年生～6年生5名による演劇を製作し、最終日に発表公演を実施した。		完了	文化芸術振興課			

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業内容	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
1	AJI PROJECT		地元の石材事業者の加工技術を活用して、暮らしに寄り添う庵治石商品の開発・販路開拓に取り組みます。 石材産地である強みを生かし、地域資源である「庵治石」を素材として、消費者の日常生活に「付加価値」を与える新商品の開発に取り組み、石材産地としてのブランドの再構築を行うことで、地場産業の振興を図ります。	出荷点数	平成25年度 約500点 平成26年度 約600点 平成27年度 約1,500点 平成28年度 約1,800点 平成29年度 約2,200点 平成30年度 未確定	—	石の世界観、石のある暮らしに共感頂ける店舗にお取扱い頂くなど、ストーリーを含めた商品の提供にこだわっており、県内外の百貨店催事や商工会等への出展のほか、各種新聞・雑誌・テレビ等でのPRを行った。	伝統工芸の現代生活への応用・転換事業、地場産業振興事業として、商品の改良、新たな商品開発を実施するほか、国内外の販路開拓をすすめて、ブランド力を高め新たな企業化展開に繋げることを目指す。	改善継続	—	高松市牟礼庵治商工会		
2	むれ源平石あかりロード	昨年度決算額：1,100千円 今年度予算額：1,060千円	地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として始めた事業で、市としては、源平屋敷地域活性化事業を通して、後援しています。 「庵治石のあかり」を道路沿いに配置して、源平史跡を巡るイベントで、庵治石とデザイン、史跡を融合した産業観光視点のイベントとして開催。期間中の毎週土曜日に限定したライブ等の多彩なイベントを始め、企画展示や観覧参加者が審査するコンテストの実施など、毎年、県内外から多数の参加者を集める事業として注目されています。	来場者数	平成25年度 75,000人 平成26年度 52,000人 平成27年度 75,000人 平成28年度 80,000人 平成29年度 75,000人 平成30年度 60,000人	80.0%	牟礼・庵治地域の石産業のPRも兼ねて、石あかりのライトアップや企画展、コンサート等を実施した。	引き続き、地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として、「庵治石のあかり」を道路沿いに配置し、源平史跡を巡るイベントを行う。	継続	観光交流課	むれ源平石あかりロード実行委員会		
3	盆人プロジェクト		盆栽のキャラクター「盆人」をシンボルに、香川県の盆栽を日本全国のみならず世界へ広めるため活動。地元香川県出身のデザイナー・カメラマン・映像クリエイター・モデル事務所などのさまざまなメンバーで構成。				・「世界盆栽プロジェクト」製作資金のクラウドファンディング達成した。 (2/28現在、達成率108%・寄付合計額5,400,000円) ・「台湾桃園地景芸術祭2018」という台湾の芸術祭に招待されるなど、国際的に認知度が上昇した。 ・朝の人気テレビ番組に出演するなど各メディアで取り上げられる機会が増え、ホームページやSNSに対するアクセス数が増加した。	「世界盆栽プロジェクト」として、平成31年4月頃に高松市特産の松盆栽を世界中にPRするショートムービーを制作予定。 また、2020年東京オリンピック・パラリンピックや瀬戸内国際芸術祭2019に向けた活動を検討している。	拡充	—	盆人プロジェクト		
4	漆芸研究所修了作品貸出事業	昨年度決算額：152千円 今年度予算額：300千円	香川に関係のある県内外の民間企業・団体に対し、漆芸研究所が保有する優れた修了作品を一定期間無償で貸し出し、香川漆芸作品に触れる機会を創出する。	貸出点数/貸出先数	平成28年度 27点/16か所 平成29年度 39点/18か所 平成30年度 39点/16か所	貸出点数：100.0% 貸出先数：88.9%	漆芸研究所保有の作品を企業や団体に一定期間無料で貸し出し、県内外において優れた香川漆芸作品に触れる機会を創出した。	作品を企業や団体に貸し出し、一目に触れる所に置いてもらうことで、今まで香川漆芸に興味を持たなかった人の目にも触れる機会を作り、香川漆芸を知ってもらうきっかけとする。また、応接室や窓口等に実際に置いてもらうことで、香川漆芸作品をアート作品として認知してもらい、アート作品としての購入を促進する。	継続	産業振興課	ZOKOKU BRAND推進委員会 (香川県文化芸術局文化振興課)	文化芸術振興課	香川県文化芸術局文化振興課主催のZOKOKU BRAND推進委員会へ出席
5	高松盆栽振興事業	昨年度決算額：3,535千円 今年度予算額：3,946千円	平成28年度から高松盆栽の普及及び生産拡大の推進を図るために各種事業を実施します。 ○高松盆栽PR事業 盆栽大会への出展など、高松盆栽のPRを実施 ○盆栽産地振興事業 盆栽産地の振興を図るため、産地の活動を支援 ○盆栽輸出振興事業 盆栽の輸出の拡大を図るため、海外盆栽バイヤーとの商談会の開催及び輸出体制の整備を支援		【平成28年度】 ○高松盆栽のPRグッズ等を作成 ○海外盆栽バイヤーとの商談会を実施 【平成29年度】 ○平成29年4月にさいたま市で開催された世界盆栽大会に出展し、高松盆栽のPRを実施	—	高松盆栽の振興を図るため、高松盆栽のPR及び産地の活動の取組を支援した。	高松盆栽の振興を図るため、高松盆栽のPR・輸出振興を支援するとともに、産地の活動の取組を支援する。	継続	農林水産課	香川県盆栽生産振興協議会ほか		

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業内容	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
6	高松盆栽の郷推進事業	昨年度決算額：1,708千円(予定) 今年度予算額：132,200千円	平成29年度に策定した「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、盆栽産地(鬼無・国分寺地区)の伝統的な盆栽文化の一層の普及・定着による「高松盆栽の郷」の産地そのもののブランド化を図るため、4つの基本方針に基づき香川県と連携しながら総合的な産地振興に取り組んでいきます。 ○国内需要の拡大 新たな需要創出に向けた取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○輸出の拡大 輸出量増加のための取組、輸出基盤の強化や販路拡大への取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○産地基盤の強化 盆栽後継者の育成のための取組、生産・販売の基盤強化のための取組 ○高松盆栽の郷づくり 「高松盆栽の郷」基本構想に基づくツーリズム等の取組、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設の整備	【平成29年度】 「高松盆栽の郷」基本構想策定			高松盆栽の公式HPの運営費を支援することで、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動に寄与したほか、高松盆栽のモニターツアーを開催するなど基本構想に基づき事業を実施した。	「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、①国内需要の拡大、②輸出の拡大、③産地基盤の強化、④高松盆栽の郷づくりを推進するために各種事業を実施する。 2019年度については、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設及び研修施設の整備を支援する。	改善継続	農林水産課	香川県盆栽生産振興協議会ほか	観光交流課	高松盆栽のPRについて、観光交流課と連携して推進する。
7	ZOKOKU BRAND 推進事業 (漆芸アート魅力再発見事業)	昨年度決算額：12,545千円 (内、市1,817千円) 今年度予算額：12,341千円 (内、市1,363千円) ※4：漆芸研究所修了作品貸出事業費を含む額	優れた技法をもつ香川漆芸の認知度向上と若手漆芸作家支援のため、若手作家の漆芸美術展や、有力ギャラリー等の招聘を行い、香川漆芸の魅力発信とともにブランド化・販路開拓の足がかりとなる事業を実施する。				香川漆芸の技法を用いた装飾を施した製品を制作してハイブランド誌上で情報発信を行うほか、国内最大級の国際的なアートフェア東京に出品し、香川漆芸のPRを行った。また、瀬戸内国際芸術祭2019に向けた「漆の家」開館の準備を実施	香川漆芸の技法を用いた装飾を施した製品を制作してハイブランド誌上で情報発信を行うほか、国内最大級の国際的なアートフェア東京に出品し、香川漆芸のPRを行う。	継続	産業振興課	ZOKOKU BRAND推進委員会 (香川県文化芸術局文化振興課)	文化芸術振興課	香川県文化芸術局文化振興課主催のZOKOKU BRAND推進委員会へ出席
8	伝統的ものづくり学校巡回教室	昨年度決算額：638千円 今年度予算額：675千円	市内小・中学校へ伝統工芸の職人を派遣し、ワークショップ等を開催することで、高松の歴史を伴う伝統工芸に関する理解や関心を深めるとともに、情操教育の一助に寄与します。	参加者数/回数	平成26年度 404人/14回 平成27年度 360人/14回 平成28年度 280人/6回 平成29年度 138人/4回 平成30年度 299人/3回	参加者数：216.7% 回数：75.0%	高松の歴史を伴う伝統的ものづくりに関する教育を推進し関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちへの伝統的なものづくりへの理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。	伝統的ものづくりの職人を希望のあった小・中学校へ派遣し、話を聞いたり、作品や作業風景を見たりする場を設ける。次代を担う子どもたちの自分自身の住んでいるまちに対する「誇り」や「愛着心」を醸成させることができるような事業となるよう、継続して実施する。	継続	産業振興課			
9	伝統的ものづくり親子体験教室	昨年度決算額：84千円 今年度予算額：84千円	夏休み期間中に小学生親子を対象として、伝統工芸品の制作体験を実施し、地域資源である伝統工芸について理解と関心を深めます。	参加者数/回数	平成26年度 111人/4回 平成27年度 242人/10回 平成28年度 294人/10回 平成29年度 230人/8回 平成30年度 300人/12回	参加者数：130.4% 回数：150.0%	親子で地域の歴史と合わせて発達した伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。	伝統的ものづくりへの理解とともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、継続して実施する。	継続	産業振興課			

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績 (平成25年度から平成30年度まで)	実施実績の 前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業内容	今後の方向性 (拡充、継続、改善 継続、縮小、統合、 完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者 (市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内 容
1	人・農地プラン推進事業	昨年度決算額：36,576千円 (予定) 今年度予算額：51,500千円	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図ります。 また、国の事業等を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図ります。	人・農地プランの作成地区数	平成25年度 30地区 平成26年度 31地区 平成27年度 32地区 平成28年度 32地区 平成29年度 32地区 平成30年度 32地区	100.0%	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・活動を支援し、地域の担い手の位置づけや農地集積を推進した。	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図る。 また、国の事業等を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図る。	継続	農林水産課			
2	アスパラ大騒ぎ	H30年度決算額 約30万円 H31年度決算額 約70万円	地域で生産されるアスパラガスを核に、食や芸術を通して、地産地消の価値や地域活性化等、多様な価値を創出、共感できる事業として取り組めます。	来場者	【来場者数】 平成25年度 カウントなし 平成26年度 カウントなし 平成27年度 約2,700人 平成28年度 約5,700人 平成29年度 約8,800人 平成30年度 約11,000人	125.0%	平成30年度は、商店街に協力いただき、参加者も前年度増となり、イベントも成功したが、参加者が多くなり、会場におさまりきらず、歩行者・店舗の迷惑となってしまうこと等は大きな反省であり、31年度は中央公園での開催を目指し、準備を進めた。	地域のイベントとして一定の認知度が上がり、来場客数も増加している。来場者、出店者、会場の三者の一体感を意識しながら、会場の定着化に努め、事業の安定化、実施体制の組織化を目指す。	継続	—	アスパラ大騒ぎ実行委員会		
3	さぬきうまいもんプロジェク	昨年度決算：14,000千円 今年度予算：14,000千円	【さぬきダイニング】 地元食材を使用した幅広い料理を提供するとともに、観光客にも自信をもって勧められる、情報発信力の高いレストランを認定し、メニュー開発やフェア・ワークショップを通じて地元食材等の認知度向上に取り組めます。	さぬきダイニング認定店舗数 (各年度末現在)	平成28年度 18店舗／(県内では27店舗) 平成29年度 21店舗／(県内では30店舗) 平成30年度 20店舗／(県内では28店舗)	95.2%	認定店が行うフェア・ワークショップ等の活動を支援するとともに、これらの活動を情報発信し、県産食材や香川の食の認知度向上を図った。 また、30年度はインバウンド対策で、4カ国語(英語、繁体語、簡体語、韓国語)のPRパンフレットを制作し配布した。	認定店において、メニュー開発やフェア、ワークショップを通じて、県産食材や香川県の認知度向上に取り組む。	継続	—	香川県、 さぬきうまいもんプロジェ クト実行委員会	観光交流課	会議への出席
		昨年度決算：18,500千円 今年度予算：17,500千円	【さぬきマルシェinサンポート】 瀬戸内の景観が一望できるサンポート高松において、対面により、生産者がこだわりの野菜や旬の果物、加工食品を販売するほか、地元シェフが県産食材を使った飲食を提供する欧風産直市を開催し、県産食材の認知度の向上とサンポート高松の賑わいづくりを図ります。	さぬきマルシェinサンポート開催回数	平成25年度 32回 平成26年度 38回 平成27年度 33回 平成28年度 41回 平成29年度 26回 平成30年度 12回	46.2%	サンポート高松地区において、日曜日に欧風産直市(マルシェ)を開催し、生産者が消費者と対面で、旬の県産野菜・果物や水産物の加工品などの販売、県産食材を使った料理を提供することを通じて、香川の食の素晴らしさを伝えるとともに県内での認知度向上・販路拡大を図った。	地域の食の素晴らしさをPRするマルシェの開催を支援し、引き続き、県産食材の認知度向上に取り組む。	継続	—			
4	たかまつ市場フェスタ事業	昨年度決算額：1,500千円 今年度予算額：1,500千円	高松市民の台所としての卸売市場の役割や流通の仕組みを広く市民に周知・啓発するとともに、生鮮食料品等の流通の円滑化と消費拡大を図るため、市民と卸売市場との交流の機会を確保しています。	来場者数	平成25年度 17,000人 平成26年度 17,500人 平成27年度 18,000人 平成28年度 18,500人 平成29年度 19,000人 平成30年度 20,000人	105.3%	卸売市場ならではのステージイベント(模擬せり等)や、体験・参加型イベント(魚のつかみ取り)を企画し、市民参加の場を増やすことで、目標来場者数の19,500人を超える20,000人の集客があった。	来場者アンケートでは高評価を得ており、また、来場者数も伸びているため、現状を維持しながら、更なるPRに努めて来場者数を増やしていきたい。	継続		市場業務課		
5	市場特別開放事業	昨年度決算額：137千円 今年度予算額：161千円	普段は、許可を受けた人しか入場できない卸売市場で、お買い物をしていただくことにより、高松市民の台所としての卸売市場の役割を知っていただくとともに、市民に親しまれ、市民に開かれた市場づくりを推進しています。	実施回数/来場者数	平成25年度 5回/6,900人 平成26年度 5回/5,800人 平成27年度 5回/5,000人 平成28年度 5回/5,200人 平成29年度 5回/5,100人 平成30年度 5回/5,300人	実施回数：100.0% 来場者数：103.9%	物販の販売だけではなく、青果を中心として、卸売業者の社員によるワークショップ的な催しを開催することで、5回で約5,300人の集客があった。	来場者数に伸び悩んでいるもののリピーター率が高く、問い合わせも多い。高松市民や近隣の市町民の方々には、ある程度認知されているようだ。最近では、県外からの旅行者の問い合わせが多くなっているため、現状を維持しつつ、「もっとたかまつ」等を通じて、県外からの旅行者にもPRしてい	継続		市場業務課		
6	高松ブランド農産物育成支援事業	昨年度決算額：3,500千円(予定) 今年度予算額：3,500千円	消費者との地産地消を基本とした共生型農業を推進するため、市内で生産された新鮮で良質な農産物や加工品を「高松産ごじまん品」として市民に提供するとともに、情報発信や農業体験教室、料理教室等の開催を通じて市内農産物の需要拡大と市民の健康で豊かな食生活の実現を図ります。 今後も、食育・地産地消の推進、農産物のブランド化を推進するため、継続して事業を行っていきます。	高松産ごじまん品関連イベント ・ たかまつ食と農のフェスタ ・ おにぎり教室(保育園・幼稚園を対象) ・ 野菜塾 ・ 料理教室 ・ 農産物のPR(試食・販売等)など	平成25年度 46回 平成26年度 49回 平成27年度 46回 平成28年度 47回 平成29年度 36回 平成30年度 36回	100.0%	食育・農業体験教室を計画的に実施するとともに、たかまつ食と農のフェスタを開催し、農産物等のPR及び地産地消を推進した。	高松市農産物ごじまん品推進協議会と連携し、農産物のPR、地産地消・食育、及び6次産業化・農商連携の推進を図る。	継続	農林水産課	【たかまつ食と農のフェスタ】 たかまつ食と農のフェスタ 実行委員会		
7	市場DE自由研究事業	昨年度決算額：120千円 今年度予算額：120千円	小学生及びその保護者を対象に、市場の流通の仕組みや機能を、夏休みにおける自由研究の題材として提供することにより、市場の役割等の知識を深めます。 今後は、市場をより身近に感じていただけるような事業展開とともに、引き続き、市場流通の拡大につながるよう地産地消の題材も取り入れていきます。	実施回数/参加者数	平成25年度 6回/226人 平成26年度 6回/218人 平成27年度 6回/202人 平成28年度 6回/194人 平成29年度 6回/180人 平成30年度 6回/181人	実施回数：100.0% 来場者数：100.6%	市場内の見学や市場に関する講座の内容をより分かりやすく充実したものにすることで、参加者から高評価を得た。	親子2人1組での応募で、各回15組30人を募集しているが、毎回抽選となっている。リピーター率が高く、口コミでの応募が増えている。体験型見学と講義を行っているため、参加者からは、自由研究が完成すると高評価を得ている。現状を維持しつつ、PRにも努めたい。	継続		市場業務課		

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績（第2次ビジョン掲載値）	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業見込	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課（関係部署）	主催者（市主催以外の場合）	関係課	関係課との連携内容
1	高松城跡等整備事業	昨年度決算額：25,094千円 今年度予算額：176,382千円	城下町高松のシンボルとなる特徴的な城郭を後世まで守り伝えるため、史跡高松城跡保存整備基本計画に基づき、石垣や披雲閣など各施設の保存修理や桜御門の復元に努める。また、天守の復元に向けて資料調査を行う。	玉藻公園入園者数	平成25年度 178,776人 平成26年度 194,026人 平成27年度 218,264人 平成28年度 238,146人 平成29年度 228,385人 平成30年度 202,161人	88.5%	史跡高松城跡輪橋北側石垣の修理後の状況をレーザー測量した。	史跡高松城跡保存活用計画の作成に着手する。また、桜御門復元整備工事を実施するとともに、披雲閣の耐震診断の実施及び観鉄の間の耐震補強工事の実施設計を作成する。	継続	文化財課		観光交流課	整備した史跡（高松城跡（玉藻公園））の活用を観光振興事業として実施
2	高松城跡（玉藻公園）をいかした観光振興事業	昨年度決算：7,922千円 今年度予算：7,147千円	重要文化財の指定を受けた披雲閣を中心とし、高松城跡（玉藻公園）の観光拠点としての知名度向上及び観光客の増加を図るため、バーチャル高松城の活用や和船体験事業等の事業を行うとともに庭園のライトアップ等、ナイト観光を充実させるイベントを実施。	入園者数	平成25年度玉藻公園入園者数 178,807人 平成26年度玉藻公園入園者数 194,016人 平成27年度玉藻公園入園者数 218,258人 平成28年度玉藻公園入園者数 237,946人 平成29年度玉藻公園入園者数 228,385人 平成30年度玉藻公園入園者数 202,161人	88.5%	高松城跡（玉藻公園）の魅力増進を図るため、大規模国際会議会期中に併せた夜間無料開放ライトアップやバーチャル高松城、和船乗船体験、年に4度の高松城跡砲隊演舞などの事業を展開したところ、平成30年度の入園者数は202,161人を記録した。	高松城跡砲隊演武、バーチャル高松城、和船体験事業を継続実施するとともに、宿泊客に高松の夜を楽しんでいただくナイト観光イベントを展開し、観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。	継続	観光交流課			
3	屋島山上拠点施設整備事業	昨年度決算：12,266千円 今年度予算：699,312千円	屋島の多様な特性・価値を深く知るための機会を提供し、より多くの人に愛着を持ってもらうため、屋島山上に誰もが気軽に立ち寄り、屋島の歴史、文化、自然環境等について学び、交流することができる拠点施設を整備します。	屋島入込客数	平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人 平成30年度 494,984人	99.3%	瀬戸内海国立公園及び史跡天然記念物という特性を生かしながら、屋島全体の活性化を目指すため、平成25年1月に策定した「屋島活性化基本構想」に基づき、屋島を訪れる観光客のニーズに対応しつつ、新たな価値や魅力を創成する各種取組を展開した。平成30年度には、屋島山上拠点施設（仮称）建設実施設計を完了させた。平成30年度の入込客数は494,984人を記録した。	屋島山上拠点施設（仮称）建設工事着手予定	継続	観光交流課			
4	屋島活性化推進事業	昨年度決算：221,213千円 今年度予算：1,363,719千円 ※屋島山上拠点施設整備、屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～、むれ源平石あかりロードの事業費を含む	屋島の活性化に向け、屋島の有する特性・価値を将来にわたり継承しつつ、市民を始め、屋島を訪れる人々に広く知ってもらうため、「屋島活性化基本構想」に基づく事業を実施し、屋島を世界に誇れる本市のシンボルとして再生します。 この事業の一つとして、山上を訪れる人々に屋島を知ってもらうため、人が集まり、学び、楽しみ、交流できる拠点となる屋島山上拠点施設を整備します。 また、屋島ドライブウェイの無料化・市道化により、屋島に気軽に訪れることのできる環境づくりが図られていることから、より一層屋島山上への誘客を推進していきます。 さらに、屋島城跡城門遺構を整備するとともに平成28年3月に一般公開を開始し、屋島の歴史の掘りおこしと情報発信を行っています。 平成29年に完成した屋島レクザムフィールドについては、四国大会等の陸上競技大会が開催可能であり、棒高跳の公認競技が可能な室内競技場を全国で初めて併設しています。	屋島入込客数	平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人 平成30年度 494,984人	99.3%	屋島関係情報ポータルサイト「屋島ナビ」の開設や芝生公園・多目的広場の整備及び維持・管理の実施などにより、屋島の特性や価値に対する市民の認識が高まり、屋島活性化に向けた機運が向上した。	引き続き、源平屋島地域運営協議会において、源平屋島地域のまつり・各種イベントを共同宣伝することにより、源平屋島地域全体の活性化やにぎわいの創出、誘客に努める。また、バス運行事業者による屋島山上シャトルバス運行事業者への補助を行い、源平屋島地域への観光客の誘致を図るとともに、新たなアクセス手段の検討や屋島周辺の観光施設への周遊を促す取組を行いながら、屋島に対する関心を広く醸成する。	継続	観光交流課			
5	屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～	昨年度決算額：2,480千円 今年度予算額：2,380千円	「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、「屋島夕夜景フェスタ」の開催期間中のいずれかの金・土曜日に、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	来場者数	平成25年度 1,650人 平成26年度 1,450人 平成27年度 1,110人 平成28年度 1,020人 平成29年度 1,280人 平成30年度 1,100人	85.9%	「食」と「音楽」によって、屋島山上への誘客を促進する「屋島夕夜景フェスタ」開催期間中の金・土曜日において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施した。	引き続き、「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	継続	観光交流課			
6	温泉をいかした塩江地域の観光振興事業	昨年度決算額：74,238千円 今年度予算額：69,381千円	観光客のニーズや嗜好、競争環境の変化等に的確に対応し、地域の持つ魅力を向上させて塩江地域の活性化を図るため、塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づき、温泉をいかした塩江地域の観光振興に努めます。	塩江温泉郷観光入込客数	平成25年度 59,392人 平成26年度 64,785人 平成27年度 68,150人 平成28年度 69,039人 平成29年度 70,010人 平成30年度 65,944人	94.2%	観光客のニーズや嗜好、競争環境の変化等に対応しながら、塩江温泉郷の活性化を図るため、塩江温泉郷を「オンリーワンの価値を持つ温泉郷」に引き上げるための指針として、平成29年3月に策定した「塩江温泉郷観光活性化基本構想」に基づき、各種取組を検討・実施した。平成30年度の入込客数は65,944人を記録した。	・塩江温泉郷観光活性化基本構想に事業の推進 ・道の駅エリア再整備の検討 ・奥の浦エリア再整備基本設計	拡充	観光交流課			
7	グリーン・ツーリズム推進事業	昨年度決算額：226千円（予定） 今年度予算額：0千円	市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。				高松市グリーン・ツーリズム推進協議会が実施するモニターツアーやスタンプラリーを支援した。	市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。（平成31年度予算なし）	継続	農林水産課			

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績（第2次ビジョン掲載値）	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業見込	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課（関係部署）	主催者（市主催以外の場合）	関係課	関係課との連携内容
8	誘客促進事業	昨年度決算額：174,361千円 今年度予算額：192,600千円	本市への誘客を促進するため、香川県と連携し、高松空港への直行便が就航している台北、上海、ソウル、香港及び成田を対象に観光キャンペーンなどを実施するほか、多言語対応可能な観光案内所の運営や、クルーズ客船の受入事業を行う。 また、広島市、松山市、岡山市及び本市の4市で構成する「瀬戸内4県都市長会」で観光誘致事業を実施するとともに、（公財）高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	観光案内所利用者数（外国人） ／ 観光関連施設等利用者数	平成25年度 - 人／6,315千人 平成26年度 - 人／6,509千人 平成27年度 - 人／6,655千人 平成28年度 18,597人／6,934千人 平成29年度 18,313人／6,816千人 平成30年度 23,164人／6,595千人	観光案内所利用者数（外国人）：126.5% 観光関連施設等利用者数：96.8%	県と連携し、高松空港国際定期路線就航先や国内線（成田線）を中心に、観光キャンペーンの実施等の誘客活動を実施した。また、外国人観光客の利便性向上のため、常時多言語対応可能な観光案内所の運営を行っているほか、クルーズ客船等の誘致・受入事業を行った。 瀬戸内4県都市長会では、香港の旅行専門誌記者を招請し、4市のPR動画を制作した。 また、（公財）高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組んだ。 平成30年度の観光案内所利用者数（外国人）は、23,164人で前年より約5,000人増加した。	県と連携し、高松空港国際定期路線就航先や国内線（成田線）を中心に、観光キャンペーンの実施等の誘客活動を実施する。また、外国人観光客の利便性向上のため、常時多言語対応可能な観光案内所の運営を行うほか、クルーズ客船等の誘致・受入事業を行う。 瀬戸内4県都市長会では、4市を巡る広域周遊旅行の提案や誘客促進に向けたプロモーション等を行う。 （公財）高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	継続	観光交流課			
9	観光客受入環境整備事業	昨年度決算額：8,508千円 今年度予算額：6,786千円	観光客等の満足度向上を図るため、無線LAN等の環境整備や観光案内板を整備して情報提供を行うほか、産学官が連携して外国人観光客の受入環境の整備事業に取り組む。	市内の主な観光施設等利用者数	平成25年度 6,315千人 平成26年度 6,509千人 平成27年度 6,655千人 平成28年度 6,934千人 平成29年度 6,816千人 平成30年度 6,595千人	96.8%	平成30年度は6,595千人を記録するとともに、行政・観光関連事業者・大学生が一層に介し、本市の外国人観光客の受入環境改善について議論する座談会を開催した。当座談会での意見を基に、中心市街地で困っている外国人観光客を助けるための学生ボランティアのガイド団体である「高松外国人観光客お助け隊」を設立した。	デジタルサイネージの運用及び公衆無線LAN環境整備については、2019年度以降も継続して実施していく。また、今後の観光政策に、両事業から得られるデータをどのように活用していくかを検討する。 外国人受入環境整備事業については、平成30年度中に外国人観光客に対応する学生ガイド団体を設立し、2019年度以降、本格的に活動をする。	継続	観光交流課			
10	さぬき高松まつり	昨年度決算額：66,198千円 今年度予算額：67,538千円	四国の四大祭りの一つとして、また、讃岐路の真夏の夜を彩る祭典として、市民をはじめ多くの観光客にも親しまれており、「もっこそ高松」を合言葉に、「瀬戸の都・高松」にふさわしい一大イベントとして、中央公園・中央通り・サンポート高松をメイン会場に、盛大に開催する。	入込客数	平成25年度 650,000人 平成26年度 620,000人 平成27年度 650,000人 平成28年度 620,000人 平成29年度 610,000人 平成30年度 580,000人	95.1%	8月12日の中央公園でのオープニングイベントを皮切りに、13日のどんどん高松花火大会において8,000発の花火が好評を博した。また、14日には、中央通りを中心に51連による総おどりが行われ、3日間で580,000人を記録した。	8月12日～14日にかけて、中央公園において、さぬき高松まつり「お祭り広場」を開催する。また、8月13日には、サンポート高松において、花火大会を実施し、14日には中央通りを中心に総おどりを開催する。	継続	観光交流課			
11	高松秋のまつり・仏生山大名行列	昨年度決算額：9,754千円 今年度予算額：9,754千円	高松の四季を表すまつりの一つとして、市民をはじめ、多くの観光客にも親しまれるまつりを目指すとともに、中心会場となる高松南部地域の活性化に寄与する。	入込客数	平成25年度 130,000人 平成26年度 150,000人 平成27年度 145,000人 平成28年度 145,000人 平成29年度 117,000人 平成30年度 155,000人	132.5%	10月20日、21日の2日間、高松市立仏生山公園や仏生山商店街を会場に、大名行列のほか、野外劇場やよろず処、黒門市等さまざまな催しを行った。2日間で155,000人を記録した。	高松市立仏生山公園や仏生山商店街を会場に、野外劇場やよろず処、黒門市等さまざまな催しを行う。	継続	観光交流課			
12	文化財保存活用推進事業	昨年度決算額：18,116千円 今年度予算額：17,299千円	市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。				指定文化財の管理・修理・伝承公開事業に対する補助金の支出。本市が所有する史跡地の除草及び施設修繕等、さらに、ふるさと探訪等文化財学習会を開催し、文化財の保存と活用に寄与した。なお、前年度からの継続事業である重要文化財小比賀家住宅土塀保存修理補助事業については完了した。	引き続き、市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。	継続	文化財課			
13	瀬戸内国際芸術祭2019	昨年度決算額：2,800千円 今年度予算額：2,540千円	文化芸術の振興と、瀬戸内の活性化や地域振興を、世界に向けての情報発信に寄与するため、現代アートの作家や建築家と協働する国際的な芸術祭と位置付けて、香川県・関係市町及び福武財団などとともに開催する瀬戸内国際芸術祭を推進していきます。 瀬戸内国際芸術祭2016においては、これまでも増して充実したアート作品やイベントが加わり、外国人来場者の割合が前回よりも8ポイント以上増加しました。今後も市独自の関連事業を積極的に実施し、内陸部への観光客の誘客も図り、本市の活性化につなげていきます。	トータル来場者／外国人の割合（アンケート調査）／経済波及効果	2010年 938,246人／1.1%／一億円 2013年 1,070,368人／2.6%／132億円 2016年 1,040,050人／13.4%／139億円	—	平成30年度もART SETOUCHIとして継続作品が公開されたので、本市として、各事業の広報活動を行うとともに、瀬戸内国際芸術祭2019に向けて実行委員会や市内各島と連携・調整しながら開催準備を行った。	香川県・関係市町及び福武財団などとともに、瀬戸内国際芸術祭2019を開催する。 （シーズンテーマ） 春会期 4/26～5/26 ふれあう春 夏会期 7/19～8/25 あつまる夏 秋会期 9/28～11/4 ひろがる秋 （計107日間）  高松市内における会場は、高松港周辺、男木島、女木島、大島	継続	文化芸術振興課	瀬戸内国際芸術祭実行委員会		
14	高松国際ピアノコンクール	昨年度決算額：なし 今年度予算額：1,900千円	音楽芸術の振興と国際的な文化交流を図ることにより、地域に根ざした文化芸術の創造と振興に寄与することを目的として、民間主導により行われる国際的なピアノコンクールの開催を支援します。 第3回高松国際ピアノコンクール（平成25年度開催）の翌年度からは、同コンクール組織委員会の実施事業以外に、本市と組織委員会が連携した取組として、学校訪問リサイタル※、コンクール審査員による演奏会や公開レッスンを実施し、今後は、平成30年の第4回開催を契機に本市の音楽文化の交流の場を広げるとともに、その発展を目指していきます。	大会参加人数／観客数	平成18年 306人／11,250人 平成22年 243人／7,550人 平成26年 239人／7,180人 平成29年 332人／10,230人	—	高松国際ピアノコンクール推進事業として、以下のメニューを実施した。 ①審査員、優勝者の演奏会 ②審査員、優勝者によるマスタークラス（公開レッスン） ③学校訪問リサイタル ④子どもたちとファイナリストの演奏会	推進事業として、30年度同様のメニューを実施予定 ①審査員、優勝者の演奏会 ②審査員、優勝者によるマスタークラス（公開レッスン） ③学校訪問リサイタル ④子どもたちとファイナリストの演奏会	継続	文化芸術振興課	高松国際ピアノコンクール組織委員会		



No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績（第2次ビジョン掲載値）	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業見込	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課（関係部署）	主催者（市主催以外の場合）	関係課	関係課との連携内容
15	サンポート高松トライアスロン	昨年度決算額：26,870千円 今年度予算額：30,000千円	サンポートエリアの海と本市中心市街地を会場に、日本全国・世界から幅広い選手たちが参加できる国内屈指の都市型トライアスロン大会「サンポート高松トライアスロン〜瀬戸内国際体育祭〜」を共催し、参加者及び市民の心と体の健康づくりを推進するとともに、本市及びサンポート高松のPR等、活力あるまちづくりの促進を図ります。 また、平成29年度からは、オリンピックの選考対象に位置づけられている国際大会「アジアカップ」を同時開催し、市民がトップレベルのスポーツを身近に観戦する機会を提供するとともに、スポーツを通じた国際交流にも取り組んでいます。	参加選手数／ボランティアスタッフ数／観客数	平成25年度 458人／749人／4,500人 平成26年度 514人／676人／12,000人 平成27年度 479人／703人／13,500人 平成28年度 584人／640人／14,800人 平成29年度 687人／1,016人／38,500人 ※平成30年度 -人/-人/-人 ※荒天により大会中止	—	荒天により大会中止	7月6日（土）、7日（日） NTT ASTC トライアスロンアジアカップ（2019/高松） サンポート高松トライアスロン〜瀬戸内国際体育祭〜	継続	スポーツ振興課	サンポート高松トライアスロン大会 実行委員会	本庁舎内各課	アジアカップにおけるコース設定等
16	日本パラ陸上競技選手権大会	昨年度決算額：9,035千円 今年度予算額：0千円	平成30年9月に本大会を四国で初めて開催しました。また、新聞・TV等の媒体による事前周知や大会開催に併せ、パラリンピアンと小学生との交流事業等を計画するなど、幅広く市民への周知に努めました。	参加選手数／観客数	平成30年度 307エントリー／約5,670人	—	四国初開催となる当大会を成功裏に終えることができ、来場者も2日間で過去最多の5,670名となった。子ども記者、子どもボランティアのほか、2階ベネチアアンテナデッキにて、民間企業と連携した障がい者スポーツの体験コーナーや障がい福祉サービス事業所による飲食ブースの出店、また芸術士と園児で制作した選手応援幕やアートリンク作品の展示などにより、大会を多方面から盛り上げていただくとともに、障がい者スポーツへの理解や共生社会の実現、心のバリアフリーの機運醸成に努めた。	6月29日（土） 中国・四国パラ陸上競技大会開催	完了	スポーツ振興課	一般社団法人日本パラ陸上競技連盟	障がい福祉課 学校教育課 産業振興課 UD推進室 都市交流室	・大会関連イベント実施にかかる連絡調整 ・台湾パラ陸上の交流事業 ユニバーサルデザインの推進
17	中国・四国パラ陸上競技大会	昨年度決算額：0千円 今年度予算額：200千円	平成29年4月の屋島レクザムフィールドのオープンに伴い、7月に同会場にて四国で初開催し、今後、平成31年、2020年の2年連続で開催します。 また、大会前日にはパラリンピアンとの交流事業、義足体験授業を実施するほか、大会当日も障がい者スポーツ体験を実施し、障がい者スポーツの推進に努めます。	大会参加人数	平成29年度 112人 平成30年度 未開催	—	平成30年度未開催	6月29日（土） 中国・四国パラ陸上競技大会開催	継続	スポーツ振興課	中国・四国パラ陸上競技協会	障がい福祉課 学校教育課 産業振興課 UD推進室 都市交流室	・大会関連イベント実施にかかる連絡調整 ・台湾パラ陸上の交流事業 ユニバーサルデザインの推進
18	かがわ山なみ芸術祭	昨年度決算額：なし 今年度予算額：1,900千円	芸術を軸とした地域の活性化を図るため、県内在住のアーティストと国内外の優れたアーティストが連携し、現代美術作品の展示やワークショップを実施します。地域の歴史文化や風土を作品制作における重要なテーマとし、そこでしか見ることができないアートイベントを目指します。	来場者数	2016 ■会期 第1期 4月29日（金）～5月22日（日） 第2期 9月17日（土）～10月9日（日） 第3期 10月29日（土）～11月13日（日） ■会場（高松市エリア） 塩江美術館・西小・塩江小・温泉通りを中心とした塩江町内を会場とし、とこでん瓦町駅ビルでプレイベントを実施。 ■来場者数（高松市エリア） 瓦町FLAG（プレイベント） 700人 塩江町 2,826人	—	翌年度の芸術祭開催に向け、NP法人かがわものづくり学校等と実施体制を確認した。	瀬戸内国際芸術祭2019の秋会期に合わせ、かがわ・山なみ芸術祭を開催する。高松市内における会場は、塩江町（塩江美術館等）を予定している。	継続	文化芸術振興課	かがわ・山なみ芸術祭実行委員会		
19	高松まちかど漫遊帖	昨年度決算額：2,178千円 今年度予算額：2,200千円	本実行委員会において、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」を春と秋の2回計画し、4月頃～6月頃までの期間において春編を、10月頃～12月頃までの期間において秋編を毎年開催している。	参加者数	【開催回数／延べコース数／延べ参加者数】 平成25年度 2回／44コース／476人 平成26年度 2回／33コース／385人 平成27年度 2回／47コース／562人 平成28年度 2回／47コース／455人 平成29年度 2回／48コース／469人 平成30年度 2回／51コース／500人	開催回数：100.0% 延べコース数：106.3% 延べ参加者数：106.6%	まち歩きへの高まりによる新規参加者増加や、リピーターの増加によって、平成30年度には通年で500人もの方々にまち歩きを体験していただくことができた。	これまでと同様に、高松市・高松市周辺で、市民が主体的に歴史・観光・産業のまちづくりや商品づくりに資することを目的として、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」の制作・運営を中心とした、まちあるき事業等の各種事業を行う。	継続	観光交流課			
		昨年度決算額：3,000千円 今年度予算額：3,500千円		【TAKAMATSU MUSIC BLUE FES】観客数（平成25年、26年は街角に音楽をフェスティバル）	平成25年度 6,850人 平成26年度 7,610人 平成27年度 20,200人 平成28年度 26,370人 平成29年度 26,370人 平成30年度 26,900人	102.0%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として5事業を実施しており、平成30年度は、他の事業とともに高松ミュージックブルーフェス2018（5/5～6）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術にふれる機会の提供を行った。		継続	文化芸術振興課			

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績（第2次ビジョン掲載値）	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業見込	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課（関係部署）	主催者（市主催以外の場合）	関係課	関係課との連携内容	
20	まちなかパフォーマンス事業 ・TAKAMATSU MUSIC BLUE FES ・サンポートオータムジャム ・高松フラストリート ・街クラシックin高松 ・たかまつ大道芸フェスタ	昨年度決算額：1,000千円 今年度予算額：1,000千円	市民の文化芸術への関心を高めるとともに、まちなかに芸術のあふれる「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、サンポート高松や商店街等で、アートに関連した各種イベントを実施します。 今後は、音楽やパフォーマンス等を通して、市民や観光客が、中心市街地において文化芸術を気軽に楽しめる空間づくりを推進します。	【サンポートオータムジャム】観客数 (平成25年度、26年度はワールドダンスフェスティバル)	平成25年度 3,100人 平成26年度 650人 平成27年度 3,800人 平成28年度 1,500人 平成29年度 1,600人 平成30年度 1,600人	100.0%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として5事業を実施しており、平成30年度は、他の事業とともにサンポートオータムジャム（11/4）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術にふれる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課				
		昨年度決算額：500千円 今年度予算額：500千円		【高松フラストリート】観客数	平成25年度 6,800人 平成26年度 7,800人 平成27年度 8,600人 平成28年度 9,500人 平成29年度 10,500人 平成30年度 12,600人	120.0%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として5事業を実施しており、平成30年度は、他の事業とともに高松フラストリート（9/8）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術にふれる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課				
		昨年度決算額：500千円 今年度予算額：1,000千円		【街クラシックin高松】観客数	平成25年度 6,470人 平成26年度 1,630人 平成27年度 3,300人 平成28年度 1,670人 平成29年度 1,020人 平成30年度 1,650人	161.8%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として5事業を実施しており、平成30年度は、他の事業とともに街クラシックin高松（9/15～24の土日祝日）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術にふれる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課				
		昨年度決算額：4,000千円 今年度予算額：4,000千円		【たかまつ大道芸フェスタ】観客数	平成25年度 27,600人 平成26年度 38,000人 平成27年度 46,600人 平成28年度 54,500人 平成29年度 62,250人 平成30年度 66,060人	106.1%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として5事業を実施しており、平成30年度は、他の事業とともに高松大道芸フェスタ（10/6～7）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術にふれる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。瀬戸内国際芸術祭2019の開催に合わせ、例年より内容を拡充して実施予定。	継続	文化芸術振興課				
21	SETOUCHI SUMMER NIGHT FESTIVAL	昨年度決算額：7,358千円 今年度予算額：6,111千円	「アート県・香川」としてのイメージを定着させるとともに、交流人口の拡大を目的として、瀬戸内海を臨むウォーターフロントの特性を生かし、アート豊富なイベントを開催する	来場者数	平成26年度 35,000人 平成27年度 52,000人 平成28年度 20,300人 平成29年度 31,250人 平成30年度 32,111人	102.8%	イベントの知名度が高まったことや、県内外への広報活動を精力的に行ったことにより、昨年より約900人多い、32,111人の方々にご来場いただくことができた。	瀬戸内国際芸術祭夏会期に合わせ、例年以上に魅力ある食ブースや「真夏の夜の夢」ステージを展開する。	継続	観光交流課				
22	創造支援センター運営事業	昨年度決算額：262千円 今年度予算額：358千円	本市における特色ある事業の創出及び地域産業の振興に寄与するため、四番丁スクエア内に、創造性に富む発想や独自性のある技術を活用した新規事業者等の活動拠点としてのインキュベーター施設（全6部屋）を設置・運営している。				全6室で入居があり現在満室である	継続して事業を実施する。	継続	産業振興課				
23	高松市美術館サポートショップ事業	昨年度決算額：180千円 今年度予算額：183千円	会期中の特別展チケットの半券、又は有効期間中の定期観覧券（年間パスポート）を提示すると、参加店舗で割引などの特典を受けることができます。また、各サポートショップに「高松市美術館サポートショップ利用者割引券」を配置し、サポートショップ利用のお客様がその割引券を美術館に持参すると特別展観覧料が割引になる相互割引制度を導入し、商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていきます。	【参加店舗数】	平成24年度39店 平成25年度53店 平成26年度69店 平成27年度119店 平成28年度147店 平成29年度145店 平成30年度134店 平成31年度125店	92.4%	参加店舗数の減少に伴い、得点利用者数も減少している。	引き続き、参加していただいている店舗の皆様と協力し、美術館をはじめとして商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていく。事業の認知度をあげるため、観光案内所等へのサポートショップマップ配布を行い、展覧会受付で声かけを行う。	継続	美術館美術課				
24	ため池景観整備維持管理事業	昨年度決算額：8,336千円 今年度予算額：8,336千円	ため池景観整備事業等で実施した施設、樹木等の維持管理に関する協定を締結した法人または市長が認める団体に対して補助金を交付し、当該施設等の適正な維持管理を図る	地区数/補助金	平成25年度 17地区/7,697,300円 平成26年度 17地区/7,819,500円 平成27年度 17地区/8,269,600円 平成28年度 17地区/8,135,800円 平成29年度 16地区/7,940,600円 平成30年度 16地区/8,252,500円	地区数：100.0% 補助金：103.9%	当該施設の景観の維持を行うことにより、来客者及び地域住民の安らぎを与えた。	引き続き、事業実施に係る支援を行い、当該施設等の適正な維持管理を図る。	継続	土地改良課				
25	障がい者スポーツ推進事業	昨年度決算額：13,400千円 今年度予算額：1,773千円 ※16：日本パラ陸上競技選手権大会事業費及び17：中国・四国パラ陸上競技大会事業費を含む	障がい者スポーツの推進を図るため、本市スポーツ施設における環境整備や障がい者スポーツ大会の誘致等を通じて、障がい者スポーツ人口の増大と競技力の向上に取り組んでいます。				民間企業との事業連携による障がい者スポーツの体験事業の実施や大会前後のpara陸上強化指定選手会宿時の地元小学生との交流事業、障がい者スポーツパネル展の実施、障害福祉サービス事業所による大会時の飲食ブース出店を通じた社会参加の促進などを通じて、障がい者スポーツの普及振興に大きく寄与した。	中国・四国パラ陸上競技大会を開催するほか、施設のバリアフリー改修工事を実施する。	継続	スポーツ振興課		障がい福祉課 学校教育課 産業振興課 UD推進室 都市交流室	・大会関連イベント実施にかかる連絡調整 ・台湾パラ陸上の交流事業 ユニバーサルデザインの推進	

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績（第2次ビジョン掲載値）	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業見込	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課（関係部署）	主催者（市主催以外の場合）	関係課	関係課との連携内容
26	トリムの祭典	昨年度決算額：2,000千円 今年度予算額：2,000千円	昭和54年度から、毎年体育の日に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントとして開催しています。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施しています。	参加者数	平成25年度 5,000人 平成26年度 中止 平成27年度 6,000人 平成28年度 6,000人 平成29年度 6,000人 平成30年度 6,000人	100.0%	関係団体と連携し、ニュースポーツ体験・健康チェックコーナー、ヨガやウォーキング等のステージイベント、ご当地キャラクターショー・ウォーキング・サイクリング等を実施し、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施しています。	体育の日（10月14日）に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントを開催します。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施する予定です。	継続	スポーツ振興課	高松市民スポーツ・レクリエーション トリムの祭典実行委員会	保健対策課	中央公園における健康チェックコーナー、ミニウォークラリーを担当
27	市民活動センター運営事業	昨年度決算額：21,124千円 今年度予算額：21,390千円	市民と行政が共に考え、共に活動する協働の場として設置している市民活動センターを管理運営し、センター事業を実施します。	【市民活動センター】総利用者数	平成25年度 3,180人 平成26年度 3,218人 平成27年度 15,429人 平成28年度 19,752人 平成29年度 23,977人 平成30年度 21,311人	88.9%	平成29年度に比べると若干利用人数が減少しているものの、2万人を超える利用者があり、市民活動団体を支援する中間支援組織として一定効果をあげているほか、I K O D E瓦町の賑わい創出にも貢献している。また、センター職員のサポート能力の充実を図るほか、親しみやすい窓口づくりにも取り組んでいる。	中間支援組織としての機能を充実し、市民活動団体等への活動の更なる支援強化を図る。センター職員のスキルアップを行うとともに、市民に気持ちよく利用してもらえるよう親しみやすい窓口づくりにも取り組み、相談事業の強化・充実を図る。	継続	男女共同参画・協働推進課			
28	アーティスト・イン・レジデンス事業	昨年度決算額：1,859千円 今年度予算額：なし	（高松アーティスト・イン・レジデンス） 高松市内の活用されていない資源（例えば、空き家、廃校、商店街の空き店舗等）を活用し、国内外から招へいたアーティストが一定期間滞在し、地域とのつながりの中で作品制作を行うことで、地域との協働が生まれ、地域に賑わいをもたらすとともに、アーティストの普及や若手アーティスト等の育成にもつなげます。	応募件数・実施事業数	平成27年度 応募17件、実施3件 平成28年度 応募40件、実施3件 平成29年度 応募15件、実施3件 平成30年度 応募27件、実施2件	応募件数：180.0% 実施事業数：66.7%	平成30年度は前年度を上回る27団体の応募があり、選考委員会により2団体を選考し、事業を実施した。	高松アーティスト・イン・レジデンス事業については、瀬戸内国際芸術祭の開催年度を除いて実施する。	継続	文化芸術振興課			
		昨年度決算額：2,000千円 今年度予算額：2,000千円	（大島アーティスト・イン・レジデンス） 県内外の小学生から中学生までの子どもたちが参加し、大島に宿泊するサマーキャンプを実施します。入所者との交流によりハンセン病の歴史を学び、歴史的遺産の伝承に資するとともに、大島の自然、瀬戸内国際芸術祭の作品鑑賞、アーティストによるワークショップ体験を通じ、大島の魅力を伝え、将来にわたる島の振興を図ります。	参加児童・生徒数	平成27年度 32人 平成28年度 22人 平成29年度 25人 平成30年度 21人	84.0%	例年同様、夏休みに子どもサマーキャンプを実施した。参加児童は、会場施設である国立療養所大島青松園が取り組む島のジオラマ作りには欠かせない松づくりを体験するなど、園との円滑な連携のもとで事業を実施でき、翌年の瀬戸内国際芸術祭の開催に向けても良い関係構築ができた。	大島アーティスト・イン・レジデンス事業は、長期的な大島の振興につながる交流促進の取組みとして、瀬戸内国際芸術祭2019とも効果的に連携しながら、引き続き実施する。	継続	文化芸術振興課			
29	障がい者アートリンク事業	昨年度決算額：12,488千円 今年度予算額：12,512千円	芸術活動を通じて障がい者の感性・想像力を育み、障がい者の社会参加の促進を図るため、希望する障害福祉サービス事業所等へ芸術家を派遣し、創造性の芽を持つ障がい者とアーティストが長期継続的に関わることで生まれる新しい概念をかたちにする創作活動を支援します。	派遣先事業所	平成26年度 6か所 平成27年度 8か所 平成28年度 9か所 平成29年度 10か所 平成30年度 12か所	120.0%	目標としていた参加事業所数を達成した	引き続き、芸術活動を通じて障がい者の感性・想像力を育み、障がい者の社会参加の促進を図る。	継続	障がい福祉課			
30	M I C E 振興事業	昨年度決算額：41,738千円 今年度予算額：44,202千円	本市が有するM I C E 開催に必要な機能の更なる充実や有機的な連携を図ることにより、高松ならではのM I C E 誘致を展開するため、M I C E 振興戦略に基づく施策を推進する。	コンベンション開催件数	平成25年度 203件 平成26年度 226件 平成27年度 217件 平成28年度 214件 平成29年度 226件 平成30年度 217件	96.0%	平成30年度のコンベンション開催件数は217件であり、参加人数は前年度の79,349人から84,063人に増加するとともに、平成30年9月には地球大気化学に関する国際会議が開催され、46の国と地域から733名（うち海外から533名）が参加することで、対外的に本市の国際会議開催能力をアピールすることができた。	引き続き、香川県M I C E 誘致推進協議会及び（公財）高松観光コンベンション・ビューローと連携しながら、M I C E の受入態勢の強化や大規模M I C E の誘致に取り組む。	継続	観光交流課			
31	魅力にあふれ、人が輝く創造都市推進事業	昨年度決算額：6,070千円 今年度予算額：1,748千円 ※32：U 4 0 プロジェクト事業を含む	本市における創造都市の普及・発展を図るため、本市の取組について、市民を始め、国内外に積極的にPRし、本市のブランド力を高める。	「高松市創造都市推進局フェイスブックページ」いいね！の数	平成26年度 2,726 平成27年度 3,555 平成28年度 4,138 平成29年度 4,388 平成30年度 4,585	104.5%	「U 4 0 プロジェクト事業」の実施のほか、創造都市推進審議会及び創造都市推進懇談会において「高松市創造都市推進ビジョン」の進行管理を行い、創造都市ネットワーク日本では、幹事団体に就任し国内における創造都市の推進役として活動した。また、従来のフェイスブックアカウントに加えて、インスタグラム及びツイッターにおいても創造都市推進局公式アカウントを開設することで、情報発信ツールを拡大し、創造都市に関する情報発信力の強化を図る。	高松市創造都市推進審議会や高松市創造都市推進懇談会において、本市の活性化に資する御意見をいただきながら、創造都市ネットワーク日本の事業に参加し、本市の取組について積極的にPRする。	継続	産業振興課		政策課（U D 推進室、移住・定住促進室） 広聴広報課 障がい福祉課 立地・創業・インベーション支援室 観光交流課 スポーツ振興課	任意団体upTAKAMATSUの取組への支援
32	U 4 0 プロジェクト事業	昨年度決算額：445千円 今年度予算額：0千円	若い世代が自ら企画・発案した事業の実施に補助すること、若い世代の柔軟かつ創造的な取組の実現を支援し、本市の創造性を高める。				若い世代が自ら企画・発案した事業を自ら取り組む「U 4 0 プロジェクト事業」の実施により、若い世代の柔軟かつ創造的な発想を生かすことができた。また、本取組が多くの報道機関において、好意的に取り上げられたことで、効果的な本市のシティプロモーションにつながった。	第4期高松市創造都市推進懇談会において、本市の活性化に資するアイデアを御提案いただき、関係課と意見交換を行うことで、「役所変革の火種」として新規事業の立ち上げや既存事業の新たな展開の可能性を探る。	完了	（産業振興課）	upTAKAMATSU（任意団体）	政策課（U D 推進室、移住・定住促進室） 広聴広報課 障がい福祉課 立地・創業・インベーション支援室 観光交流課	任意団体upTAKAMATSUの取組への支援

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績（第2次ビジョン掲載値）	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業見込	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課（関係部署）	主催者（市主催以外の場合）	関係課	関係課との連携内容
33	「気持ち高まる、高松。」シニアプロジェクト事業	昨年度決算額：4,638千円 今年度予算額：4,457千円	高松を知らない層に対して、効果的な情報発信を行うことにより、本市に対するポジティブなイメージの浸透を図り、観光・MICE誘致のみならず、移住・定住促進、シビックプライド醸成などにつながる。	サイト訪問件数	平成30年度 63,459件	—	リニューアルした「エクスペリエンス高松」について、体験型コンテンツを積極的に取材することで、サイト内集積記事数を36件に増加させることができ、平成30年度のサイト訪問件数は63,459を、ページビュー数は136,466を記録した。	引き続き、多言語サイト「エクスペリエンス高松」により情報発信を行う。	継続	観光交流課			
34	せとるべ（高松港玉藻防波堤灯台）夜間特別公開	昨年度決算額：200千円 今年度予算額：0千円	“灯台のまち高松”事業の一つとして、若年層への認知度向上及びメディアの拡散効果を狙って、日中は毎年開催されているものの、夜間は開催されてこなかったせとるべの特別公開を行う。	高松市創造都市推進局Facebookにおける「灯台」関連発信記事のリーチ数	平成30年度 18,358件	—	平成30年11月10日に「せとるべ夜間特別公開+婚活」として、かがわ縁結び支援センターが主催する婚活イベントのアトラクションとして夜間特別公開を活用することとなり、35名が参加するとともに、当事業は今後の夜間公開に向けての高松海上保安部との連携の良い機会となった。	高松海上保安部と連携の上で、引き続き、夜間特別公開を行う。	継続	観光交流課			
35	高松的台湾夜市 in北浜アリー	昨年度決算額：1,500千円 今年度予算額：非公開	交流協定を締結している台湾基隆市を広くPRし、関心を高めてもらうとともに、台湾を相手地域とするホストタウンとして、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運を醸成することを目的とする。	来場者数	平成30年度 4,200人	—	目標を大幅に上回る来場者数があり、交流協定を締結している台湾基隆市への関心を高めてもらうとともに、台湾を相手地域とするホストタウンとして、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運を醸成することができた。	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、多くの市民に台湾の文化や食を体験してもらうことで、台湾に親しみを感じてもらう。	継続	観光交流課			
36	中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアンを招へいた交流事業	昨年度決算額：924千円 今年度予算額：1,500千円	ホストタウンの対象地域である台湾から、中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアン等との交流を通して、市民にパラリンピックや障がい者に関心を持ってもらうきっかけとするほか、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運を醸成する。	参加者数	平成30年度 4,280人	—	中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアンを招へいた交流事業を実施したことで、市民にパラリンピックや障がい者に関心を持ってもらうきっかけになったほか、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運が醸成できた。	6月29日開催の「2019中国・四国パラ陸上競技大会」に、中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアン等を招へいし、参加してもらうほか、小学校での交流事業も行う。	継続	観光交流課			
37	トゥール市姉妹都市提携30周年記念事業	昨年度決算額：13,129千円 今年度予算額：0千円	平成30年度にトゥール市（フランス共和国）との姉妹都市提携30周年を迎えることから、国際交流活動をさらに活性化させ、市民の国際感覚の醸成を図るため、記念事業を実施するとともに、民間国際交流団体の事業実施を支援するもの	参加者数	平成30年度 1,345人	—	参加者数は、目標を上回っており、国際交流活動を更に活性化させるとともに、市民の国際感覚の醸成が図れた。		完了	観光交流課			
38	高松市文化芸術ホール改修事業	昨年度決算額：29,808千円 今年度予算額：69,552千円	高松市文化芸術ホールは平成30年度で開館から14年が経過し、音響・照明・舞台設備等、更新が必要となるとともに、ホールのつり天井は既存不適格建築物として改修等の対応が必要になっています。そのため、更新・改修に係る工法・範囲等の調査検討の上、効率的な更新改修計画に基づき実施設計し、休館期間を設けて全面的に更新・改修を行います。	設備更新・建物改修に係る進捗率	平成30年度 30%	—	平成30年7月から工法検討業務委託を開始し、毎月定例会で情報共有を図りながらホールの実情に合った改修方法を検討している。30年度末で中間報告を受け、改修の選択肢・それに伴う予算規模がある程度具体的になったところである。	工法検討業務の結果を受け、真に必要な改修箇所や休館期間を検討しながら改修計画を策定する。	継続	文化芸術振興課			
39	高松市文化芸術ホール開館15周年記念事業	昨年度決算額：1,000千円 今年度予算額：5,000千円	高松市文化芸術ホールは、本市の文化芸術の核であるべき施設であり、サンポート地区の賑わい促進に寄与する施設です。当該ホールの役割が重要となる中、15周年記念事業を実施することにより、より多くの市民が集い、楽しめるホールを目指すとともに、教育文化施設、市民文化団体等とも連携し、20周年を見据えた取り組みを図ります。（事業期間：平成30年～31年）	開館15周年記念事業の来場者数	公演メニューを決定 広報を実施	—	開館15周年記念事業の実施に向け、公演メニューを決定し、PRに取り組んだ。	開館15周年記念事業として、通常より拡充した各メニューを実施する。	継続	文化芸術振興課			
40	史跡清尾山古墳群の国史跡追加指定を記念した関連イベント	昨年度決算額：2,248千円 今年度予算額：0千円	平成24年度から28年度に調査した稲荷山地区の積石塚が当該年度に国史跡へ追加指定されたことを記念して、古墳群の歴史的価値を市民に周知するとともに、古墳群への関心をさらに深めていただくためにイベントを実施した。内容は、稲荷山地区の国史跡に追加指定された古墳の見学会、石清尾山古墳群全体の未来像を学識経験者に討論していただくシンポジウム、石清尾山古墳群に関連した企画展の開催である。	稲荷山地区見学会 参加者数 シンポジウム 参加者数 企画展 来館者数	平成30年度 1,845人 内訳 稲荷山地区見学会 参加者数：70人 シンポジウム 参加者数：170人 企画展 来館者数：1,605人	—	石清尾山古墳群に関する情報発信を複数の機会で行い、多くの方々にイベントに参加いただくことができた。関連して、市内だけではなく、県内外から古墳群に関する問い合わせが増加した。古墳群に対する興味・関心の向上が高松市民だけではなく県内外の方々にも認められ、古墳群の認知度が向上すると共に、文化財の活用面での実績を作るという成果があった。	史跡整備の基本方針を定める保存活用計画を作成する一方で、これまで以上に古墳群に関する情報発信を行い、古墳群の歴史的価値の周知に努める。	完了	文化財課			

No	主な取組事業名	昨年度決算額及び今年度予算額	主な取組事業概要	実施実績	実施実績（第2次ビジョン掲載値）	実施実績の前年度からの上昇率	平成30年度における成果	令和元年度事業見込	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課（関係部署）	主催者（市主催以外の場合）	関係課	関係課との連携内容
41	菊池寛生誕130年・没後70年記念事業	昨年度決算額：11,640千円 今年度予算額：0千円	郷土の生んだ文壇の大御所・菊池寛の業績をたたえるとともに、市民の文学に対する理解と関心を深めるため、シンポジウム及び文学展を開催するもの。 また、菊池寛を若い世代にも知ってもらうため、その生涯や文豪との交流をエピソードを交えてマンガで分かりやすく紹介するもの。 ・シンポジウム《ふるさとと文学2018～菊池寛の高松》開催 ・菊池寛記念館第27回文学展「菊池寛生誕130年・没後70年記念 菊池寛をふりかえる」開催 ・マンガ「高松が生んだ文豪 菊池寛」の製作、市内小中学校等へ配布	シンポジウム及び文学展来場者数	平成30年度 3,564人	—	記念シンポジウム及び文学展の開催並びに菊池寛の生涯を描いたマンガの製作により、地域に根ざした文化芸術の普及と振興に効果があった。 また、市民の教養の向上と市民文化の発展にも寄与した。	前年度に引き続き文学展及び記念講演会等を開催し、市民の文学に対する理解と関心を深める。	完了	文化財課			
42	フラッグ訪問イベント in 高松	昨年度決算額：663千円 今年度予算額：0千円	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本全国で気運を盛り上げ、大会への参画、応援を促すためフラッグツアーを実施する。丸亀町商店街けやき広場からドーム広場までの間をオリンピック・パラリンピアンと共にオリンピック・パラリンピックフラッグを持ってパレードを行うとともに、パレード後、ドーム広場でトークショーを行う。	イベント参加者数	平成30年度 249人	—	東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーの高松巡回に合わせて、フラッグを本庁舎1階市民ホールへ展示し、オリンピック・パラリンピックへの周知啓発及びボランティアチラシの配布を実施した。 また、フラッグ訪問パレードを丸亀町商店街で行い、オリンピックの鈴木徹選手、永尾嘉章選手を招いたトークショーを実施し、オリンピック・パラリンピックの機運醸成に努めた。		完了	スポーツ振興課			
43	スポーツ施設オープニングイベント開催事業	昨年度決算額：2,287千円 今年度予算額：0千円	高松市ヨット競技場及び高松市立りんくうスポーツ公園の共用開始に伴い、市民への周知や施設の利用促進を図るため、オープニングイベントを実施します。	オープニングイベント参加者数	平成30年度 約900人	—	高松市立ヨット競技場のリニューアルオープンと高松市立りんくうスポーツ公園のオープンに伴い、オープニングセレモニーとオープニングイベントを実施することにより、施設のPRや利用促進並びに市民スポーツ活動の推進に繋がった。		完了	スポーツ振興課			
44	高松市美術館開館30周年記念事業	昨年度決算額：68,189千円 今年度予算額：0千円	展覧会5展、講演会1本、パフォーマンス2本、商店街との連携イベント2本の開催。収蔵品図録の発行。	展覧会5展入場者数	平成30年度 22,810人	—	開館30周年記念として魅力ある展覧会を開催することができたが、全体的に入場者数は当初予定より少なかった。		完了	美術館美術課			